

第149回統計委員会・第8回企画部会(合同開催)(文書開催)議事結果

1 日付 令和2年4月30日(木)～5月13日(水)

2 審議参加者

【委員】

北村 行伸(部会長)、椿 広計(部会長代理)、岩下 真理、川崎 茂、神田 玲子、清原 慶子、佐藤 香、嶋崎 尚子、白塚 重典、津谷 典子、中村 洋一、野呂 順一、宮川 努

【説明者】

総務省政策統括官(統計基準担当)付統計企画管理官室

総務省統計委員会担当室

厚生労働省政策統括官付参事官付雇用・賃金福祉統計室

3 議事

(1) 諮問第139号の答申「公的統計の整備に関する基本的な計画の変更について」

(2) 毎月勤労統計調査について

4 議事の状況

「新型コロナウイルス感染症対策の総務省対処方針」(令和2年4月7日最終改正、新型コロナウイルス感染症総務省対策本部決定)において、「総務省主催の(略)有識者会議については、緊急事態宣言が効力を有する間、遠隔開催以外は中止とする。」と定められたことに伴い、第149回統計委員会・第8回企画部会(合同開催)は文書開催として行われた。

(1) 諮問第139号の答申「公的統計の整備に関する基本的な計画の変更について」

資料1に基づき、書面による審議が行われ、全ての委員から賛同が得られたことから、案のとおり決定された(決定日:令和2年5月1日)。

(2) 毎月勤労統計調査について

資料2-1及び2-2に基づき、書面による審議が行われた。

委員から提出された意見と、それに対する厚生労働省の対応方針は、別紙のとおり。

委員名前	川崎 茂
------	------

配布資料 番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答
		質問は特にありません。今回、ギャップが従来よりも小幅におさまっていることは朗報であり、ローテーションサンプリングの効果が出たものと思います。毎月勤労統計の設計は、現在ではアメリカ BLS の Current Employment Statistics (CES) にかなり近くなっており、CES ではさらにギャップを縮めるための研究で日本に先行しているので、今後はそれを参考にして、引き続きギャップをさらに縮小するよう研究していただけたらと思います。	ご意見ありがとうございます。ご指摘の点も踏まえつつ、今後もギャップを縮小する方法の検討に努めてまいりたいと思います。

委員名前	佐藤 香
------	------

配布資料 番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答
		推計の見直し・遡及によって、サンプル入替等に起因するギャップ幅が大きく縮小しており、遡及作業の有効性が示されている。引き続き、遡及と検証を継続して、毎月勤労統計データの質の向上につとめていただきたい。	ご意見ありがとうございます。今後もデータの質の向上に努めてまいりたいと思います。

委員名前	中村洋一
------	------

配布資料 番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答
2-1	13	「場合分け(その他)」の方法とは異なる印象ですが、妥当な仮定と 考えます。遡及推計に注がれた多大な労力を評価したいと思います。	ご意見ありがとうございます。引き続き、推計方法等の検証を行いつつ、 作業を進めてまいりたいと思います。

委員名前	野呂順一
------	------

配布資料 番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答
2-2	1	平成2年1月の新旧差が圧縮され、非常によかったと思います。	ご意見ありがとうございます。今後もギャップを縮小する方法の検討に 努めてまいりたいと思います。